

為永春水作  
一勇齋國芳画

Gōkan: (No. 017)  
Hakken Den Gojitsu.  
3 books, 6 vols.

八犬傳後日譚  
初編

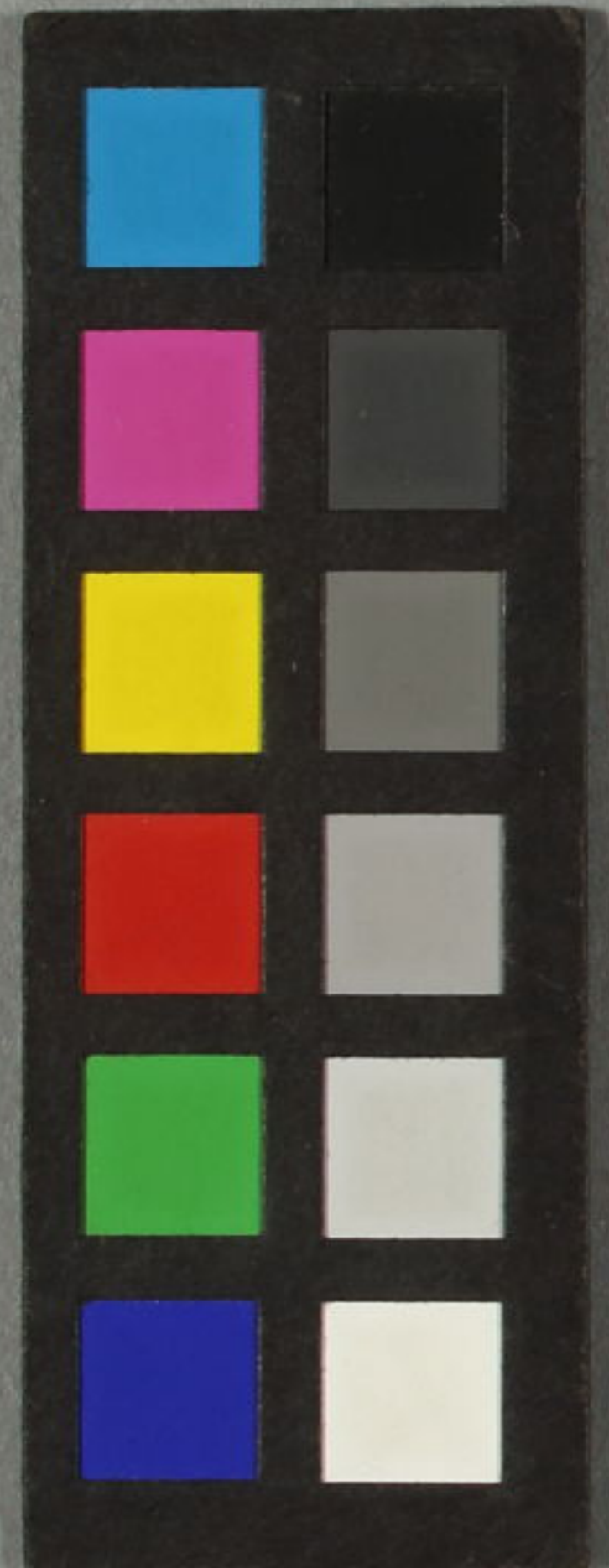


^13  
3663  
2

^13  
3663  
1

Gōkan: (No. 017)  
Hakken Den Gojitsu.  
3 books, 6 vols.

八代傳後日譚  
初編



~ 13  
3663  
1



門 へ 13  
號 3663  
卷

八犬傳  
後日譚



為永春水作  
一勇齋國芳画  
栄久堂  
後免

永春の春  
新特

初編上之卷

二十八年の丹誠を百六巻のあるまゝに終て果せ八犬傳を今  
 昔未だ世に傳へず大筆を既の局に結ぶるを則二世の八犬士の渡莫當時  
 小稱言傳小致仕々退隱とて二世の八犬士の復亦里見不召出さざる  
 智勇も又祖の方らむとあれどもとをさるふと其傳るはるの看官飽さるの念いあり  
 借統輔と追局と二三世十六犬士の具の做バ一人あらんと知立日甲乙們の勸  
 る隨意熟々と是を憶へ齋余愆と仮字讀八犬傳と編つるは愧はるまゝ死  
 所為さるゝ孤今ちと這書小筆と採人の鳥辭ある者か似れども迎の備る袖か  
 ら今更厭ふ何ゆせん先試小硯小墨と合卷二冊と終るものら他し書名  
 と肩せさるゝ終後日譚と題して書房が市小出をば免鴨の脛短者  
 鶴の脛の目長小見ありと願ふこと

癸丑の春吉旦  
為永春水記

犬傳





木辛 壁妻

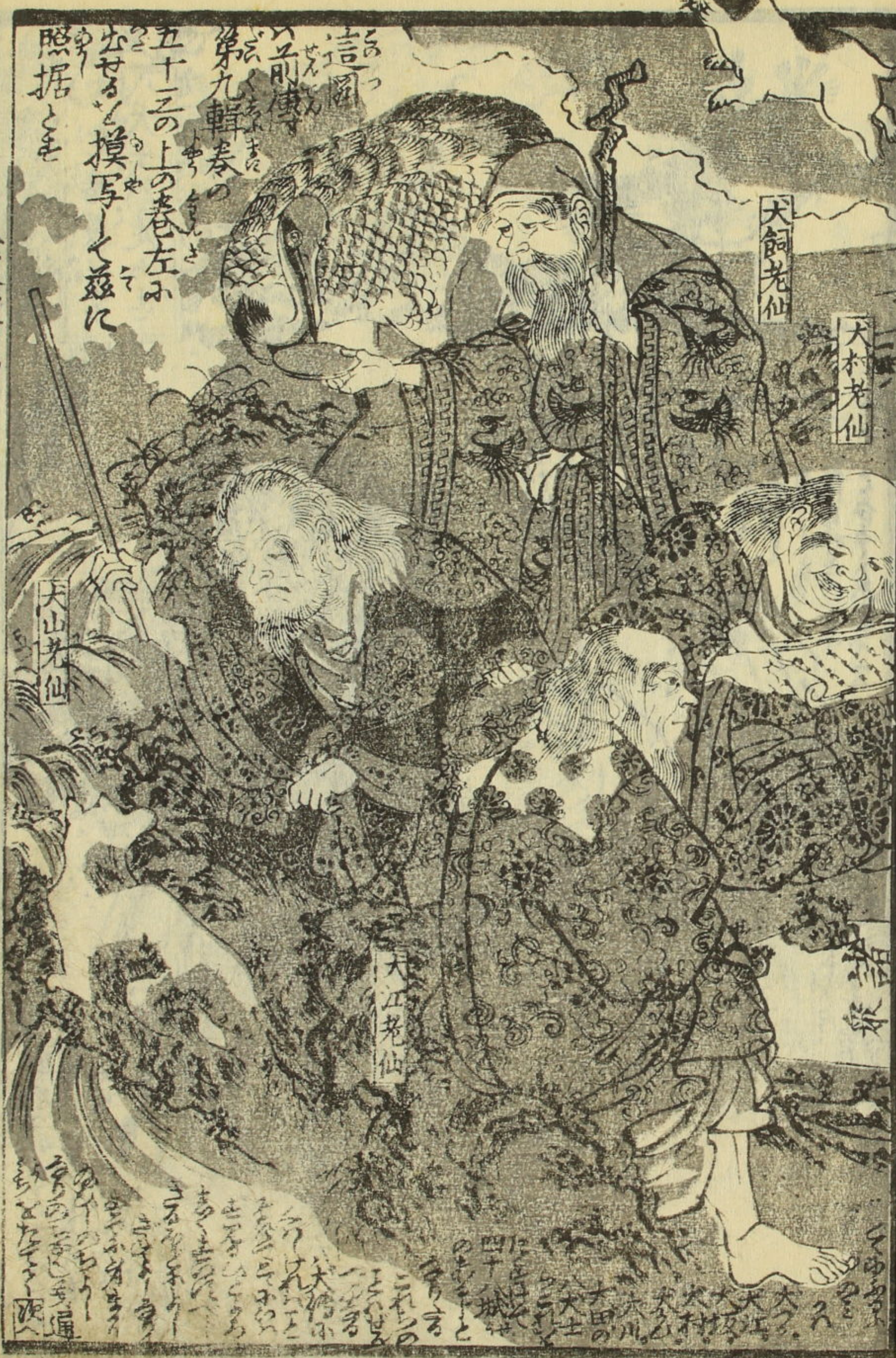
里見 上總 實亮

新國司 義豊



實亮の側室 薄衣

義豊の



言圖  
前傳  
第九輯卷の  
五十二の上の巻左ふ  
おせると摸写しく茲に  
照据とを

天飼老仙

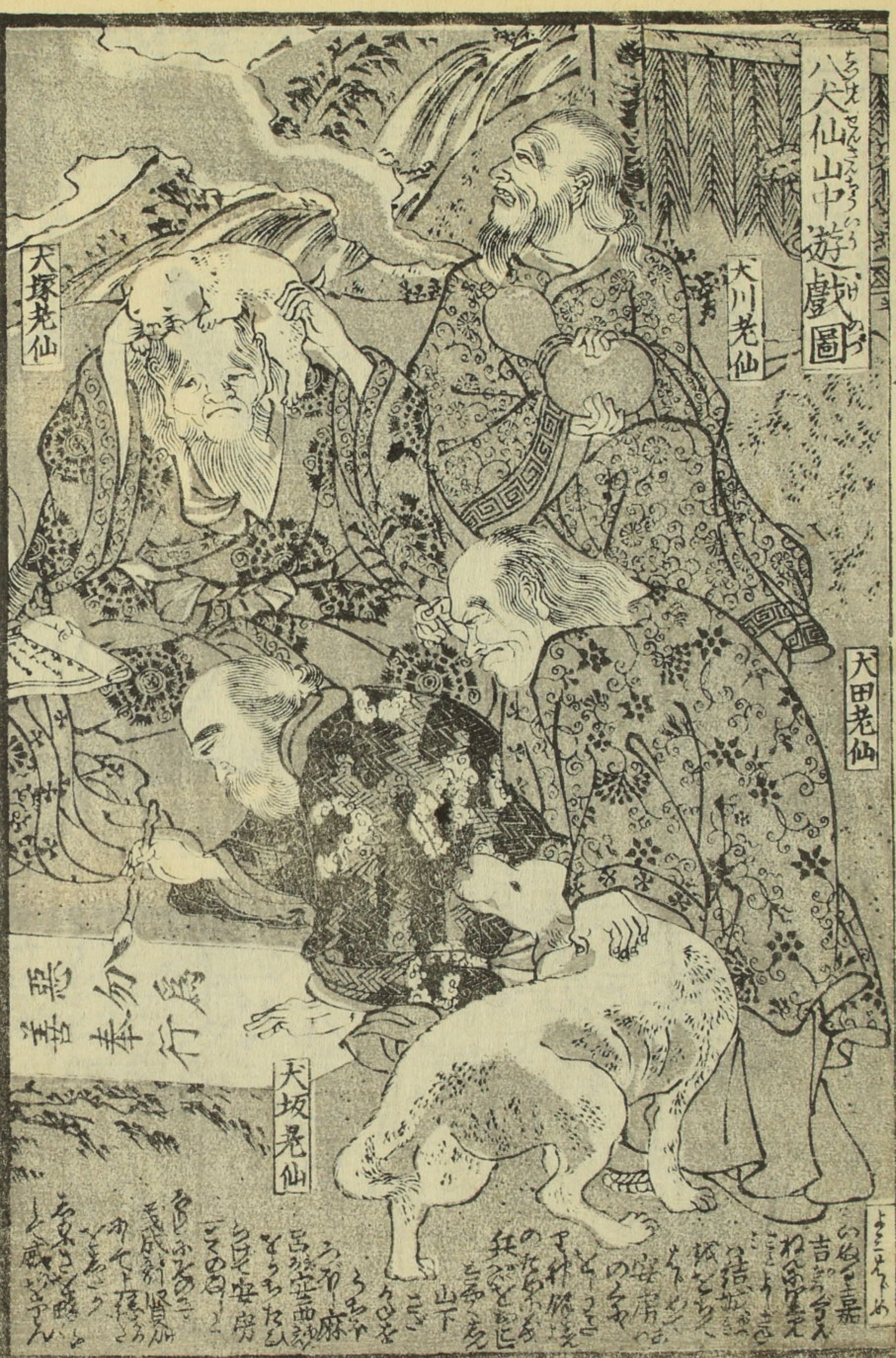
天村老仙

天山老仙

大江老仙

諸衆

大村老仙  
大江老仙  
天山老仙  
天飼老仙  
天村老仙  
諸衆  
大村老仙  
大江老仙  
天山老仙  
天飼老仙  
天村老仙  
諸衆  
大村老仙  
大江老仙  
天山老仙  
天飼老仙  
天村老仙  
諸衆



八犬仙山中遊戯圖

天川老仙

天田老仙

天塚老仙

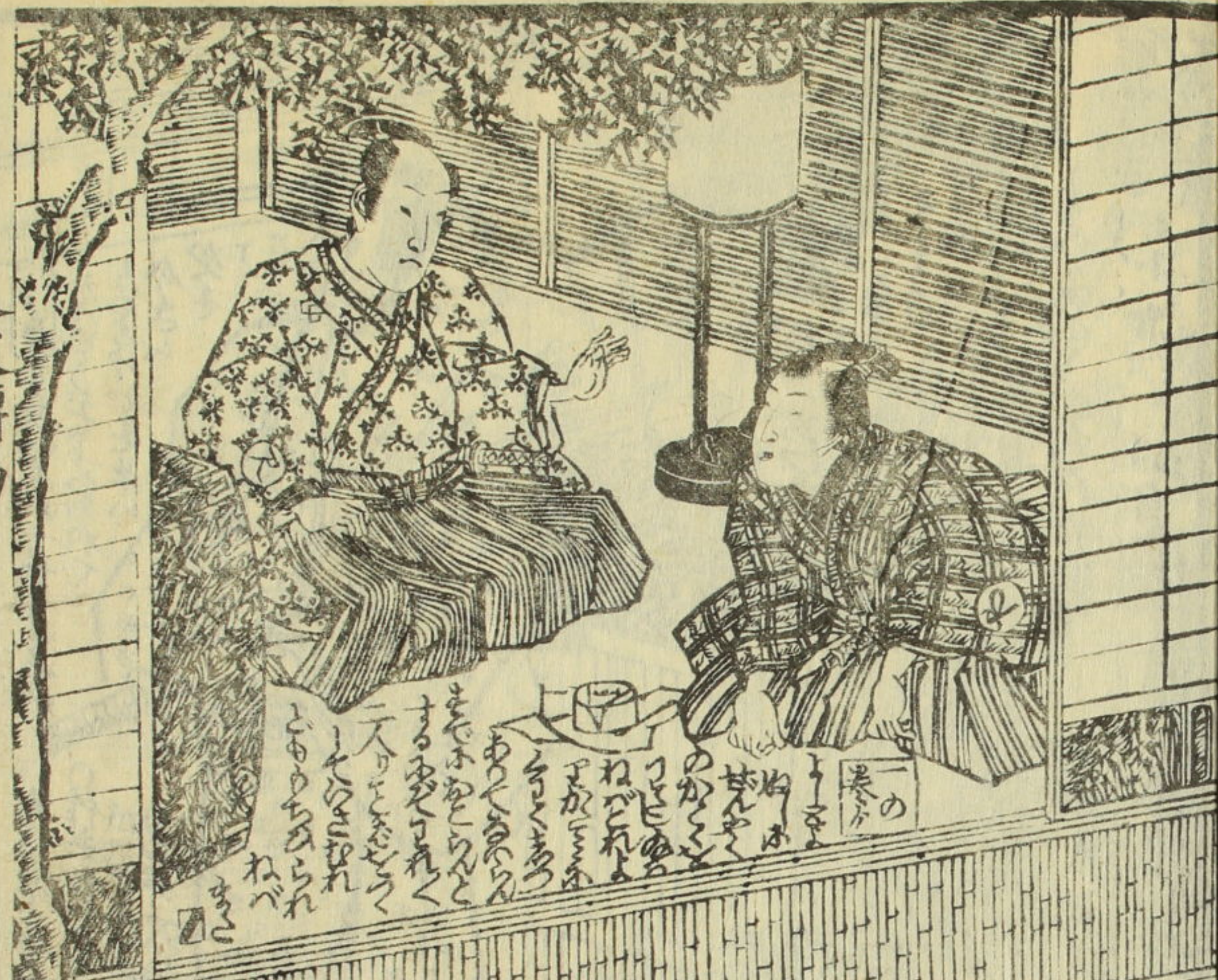
天坂老仙

爲行奉爲

天坂老仙  
天田老仙  
天川老仙  
天塚老仙  
爲行奉爲  
天坂老仙  
天田老仙  
天川老仙  
天塚老仙  
爲行奉爲  
天坂老仙  
天田老仙  
天川老仙  
天塚老仙  
爲行奉爲

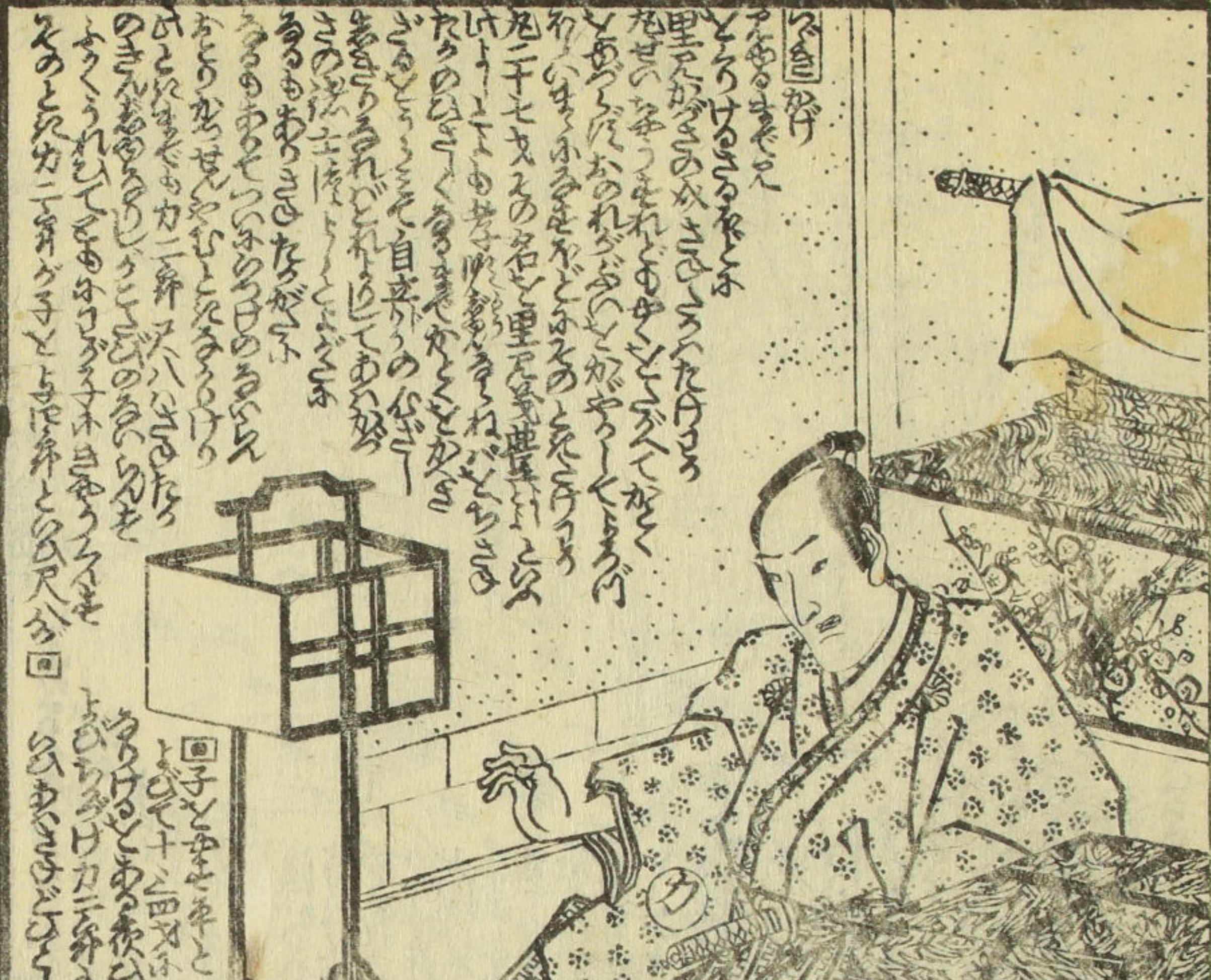


大博刀



今さらいふ事... 大博刀... 大博刀の事... 大博刀の事...

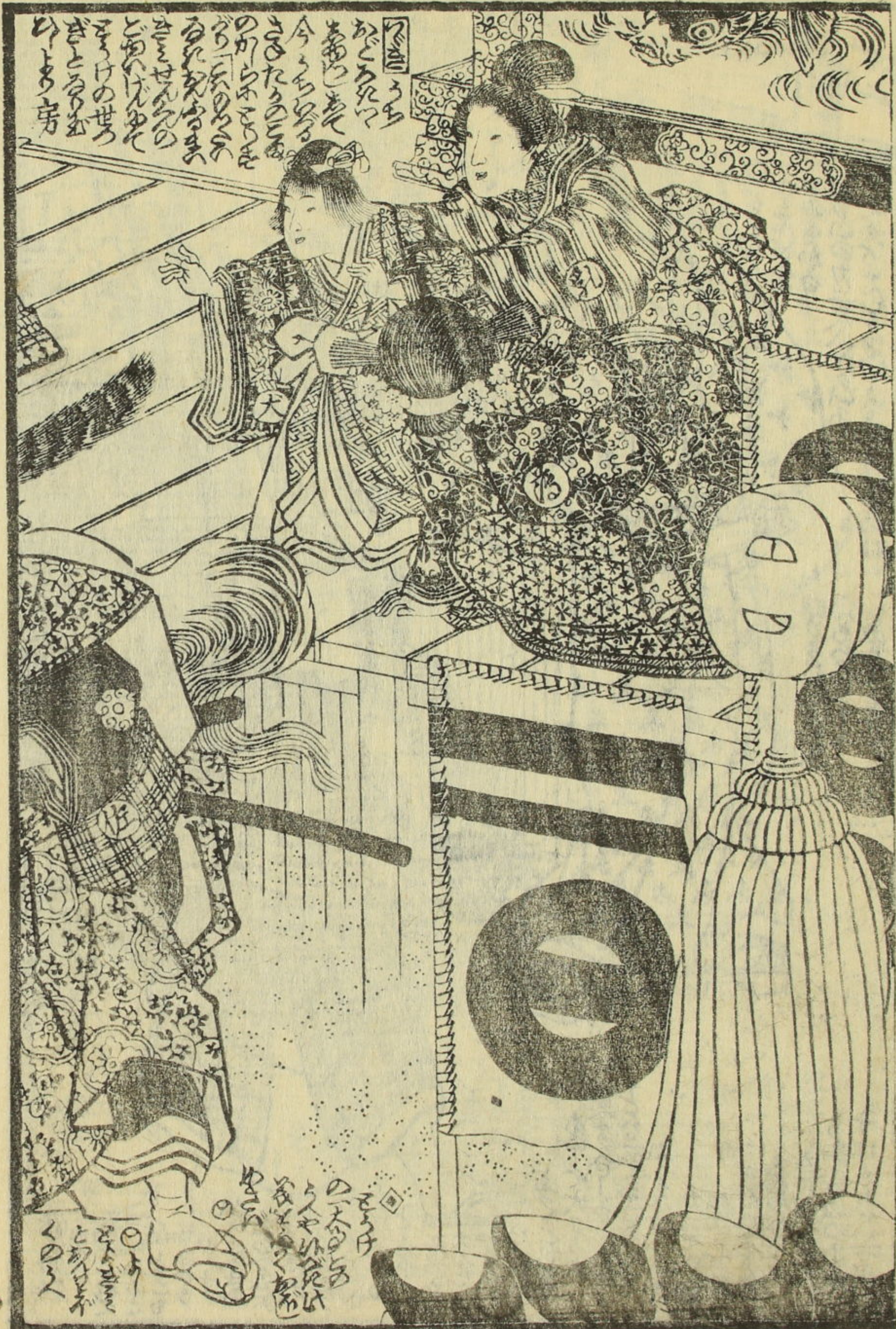
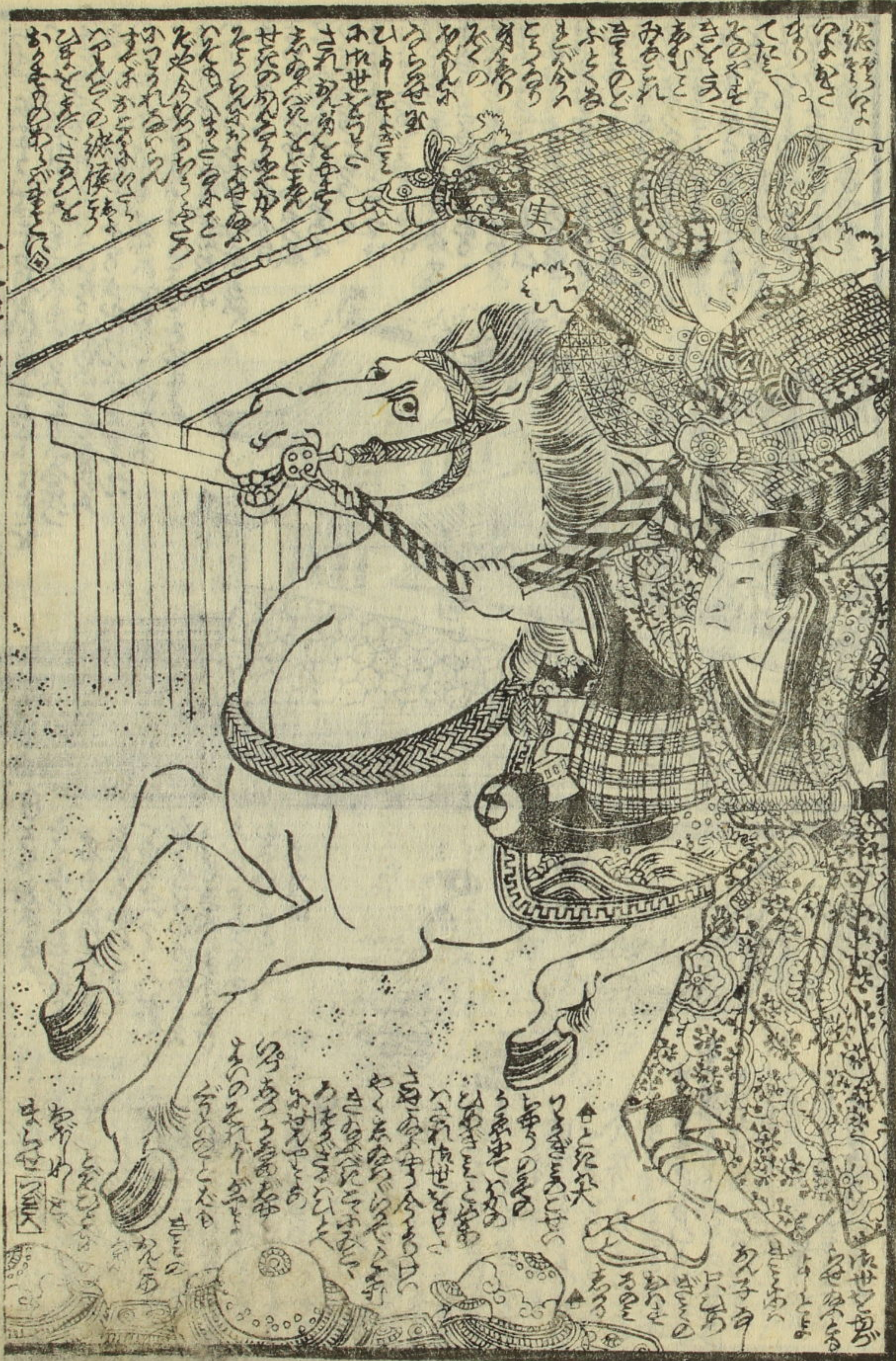
八州傳



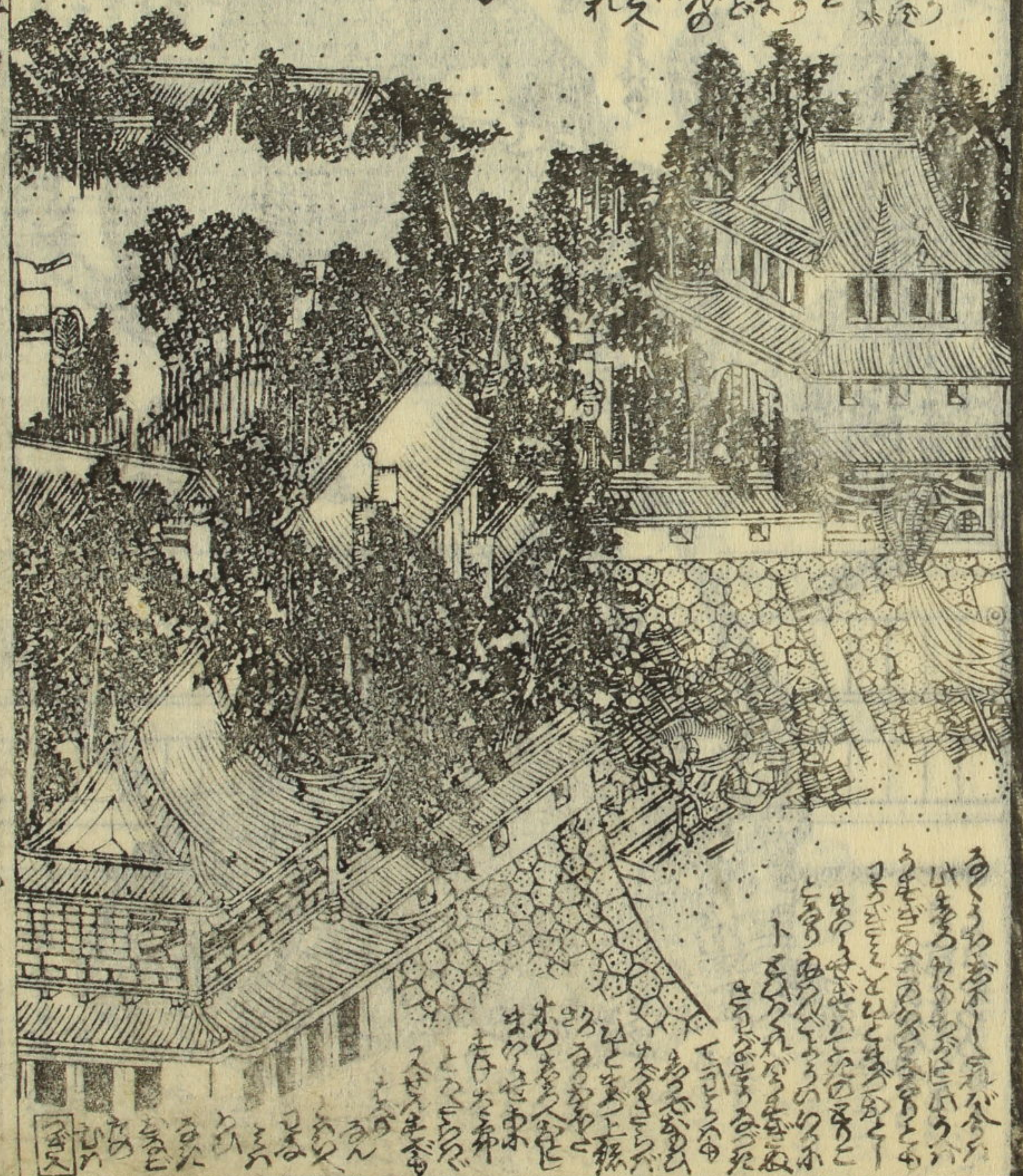
大博刀の事... 大博刀の事... 大博刀の事... 大博刀の事...







稲村の城落去の圖

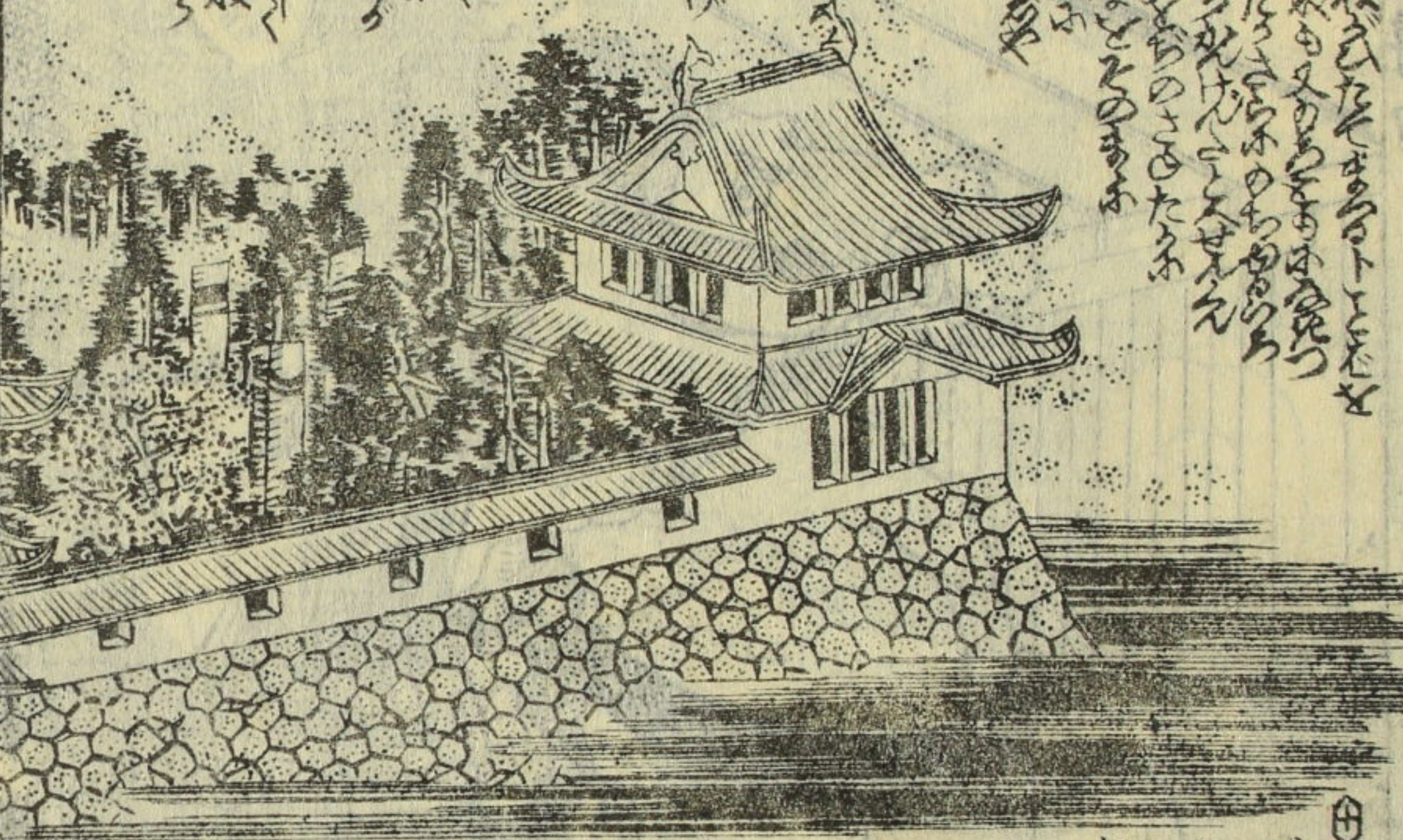


たゞしこの村は昔より  
 稲作の地なりしが  
 城を築きて居りしが  
 今もその跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが此の城  
 落去りて今も其の  
 跡を尋ねば見ゆべ  
 しと云ふ事なりしが  
 此の城落去りて今も  
 其の跡を尋ねば見  
 ゆべしと云ふ事なり  
 しが此の城落去りて  
 今も其の跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが

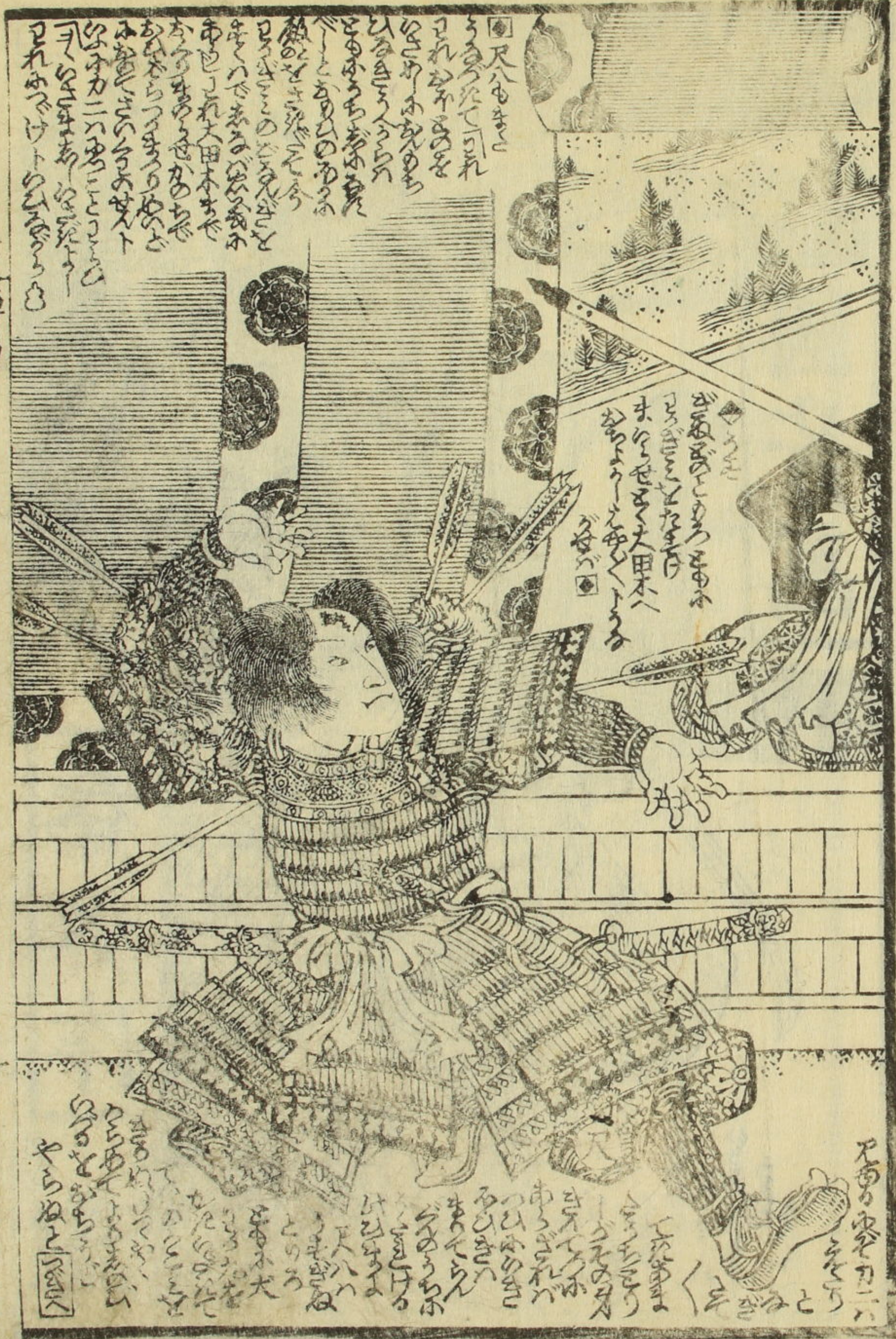
此の城は昔より稲  
 作の地なりしが城  
 を築きて居りしが  
 今もその跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが此の城  
 落去りて今も其の  
 跡を尋ねば見ゆべ  
 しと云ふ事なりしが  
 此の城落去りて今も  
 其の跡を尋ねば見  
 ゆべしと云ふ事なり  
 しが此の城落去りて  
 今も其の跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが

八代傳

此の城は昔より稲  
 作の地なりしが城  
 を築きて居りしが  
 今もその跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが此の城  
 落去りて今も其の  
 跡を尋ねば見ゆべ  
 しと云ふ事なりしが  
 此の城落去りて今も  
 其の跡を尋ねば見  
 ゆべしと云ふ事なり  
 しが此の城落去りて  
 今も其の跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが



此の城は昔より稲  
 作の地なりしが城  
 を築きて居りしが  
 今もその跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが此の城  
 落去りて今も其の  
 跡を尋ねば見ゆべ  
 しと云ふ事なりしが  
 此の城落去りて今も  
 其の跡を尋ねば見  
 ゆべしと云ふ事なり  
 しが此の城落去りて  
 今も其の跡を尋ね  
 ば見ゆべしと云ふ  
 事なりしが



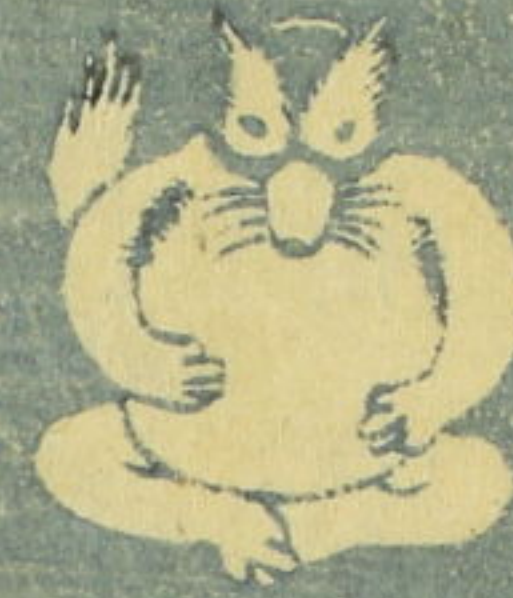


仁



禮

智



勇

義

忠

孝

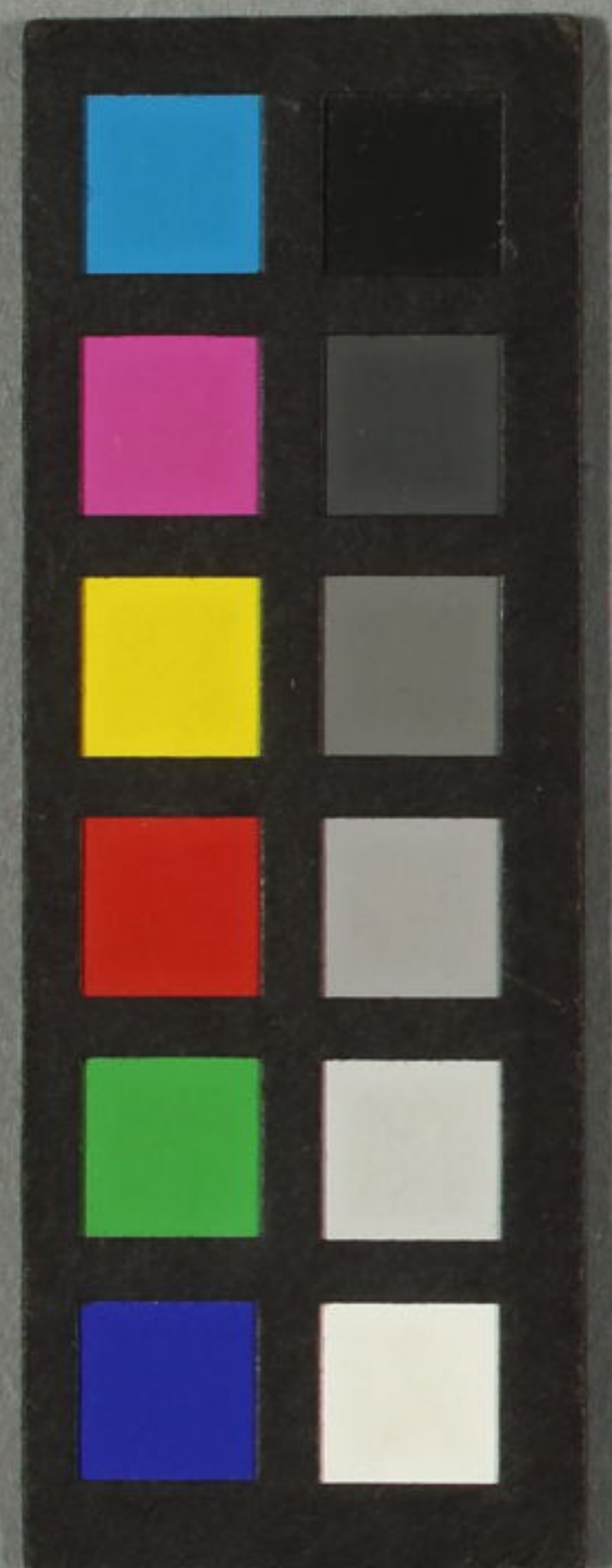


信



悌





爲永春永作  
一勇齋國芳画

^13  
3663  
2

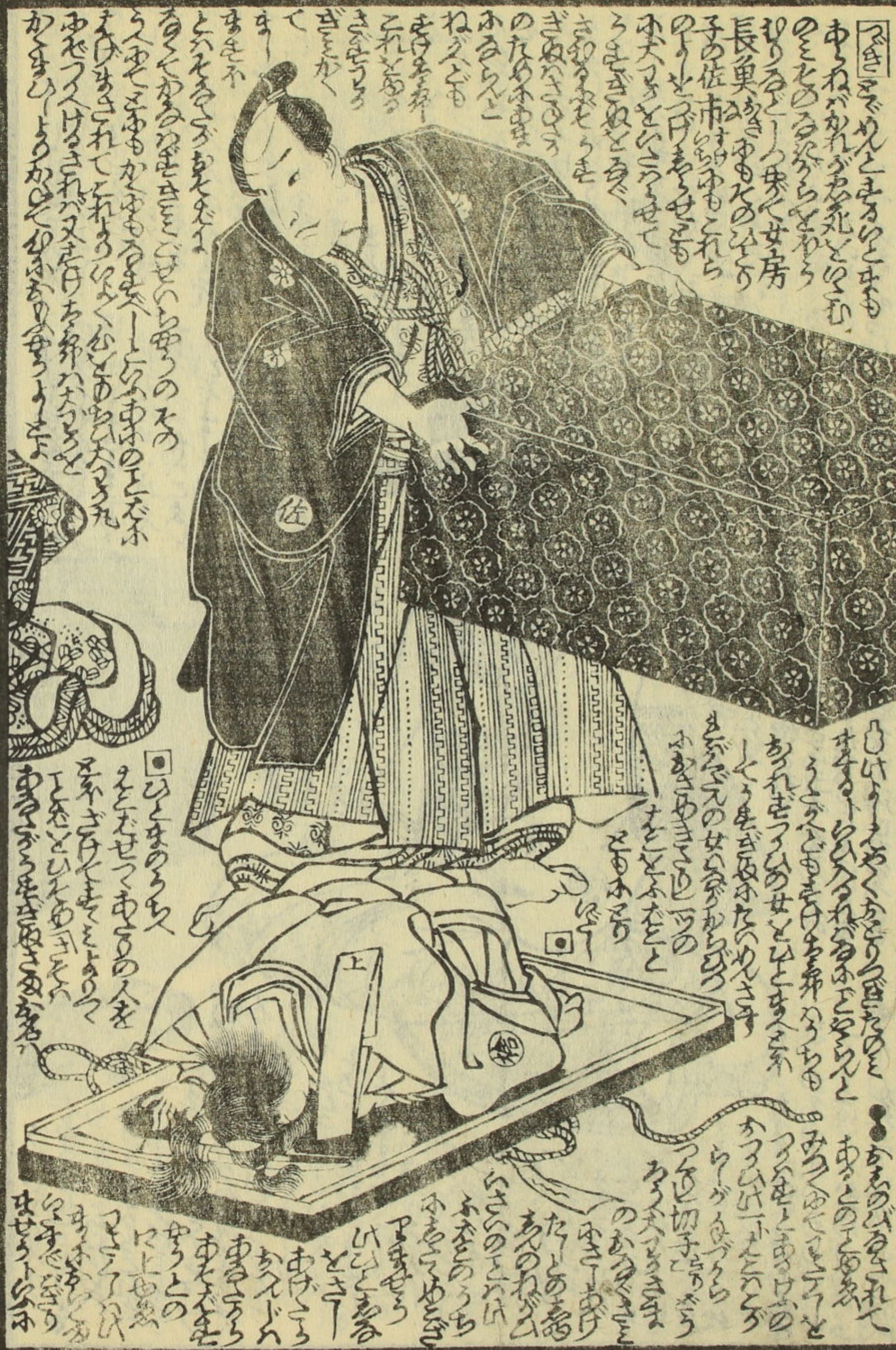












あつたかかれが丸とていふ  
のこるからとてわら  
りる一人衆の女房  
長奥の女房のひとり  
子の佐市のおもひ  
のりてつとせせ  
小大のつとせせ  
うはきぬとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて

ひげのえりかきりつた  
まのせとて  
うはきぬとて  
あつたかかれが丸とていふ  
のこるからとてわら  
りる一人衆の女房  
長奥の女房のひとり  
子の佐市のおもひ  
のりてつとせせ  
小大のつとせせ  
うはきぬとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて

あつたかかれが丸とていふ  
のこるからとてわら  
りる一人衆の女房  
長奥の女房のひとり  
子の佐市のおもひ  
のりてつとせせ  
小大のつとせせ  
うはきぬとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて



あつたかかれが丸とていふ  
のこるからとてわら  
りる一人衆の女房  
長奥の女房のひとり  
子の佐市のおもひ  
のりてつとせせ  
小大のつとせせ  
うはきぬとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて

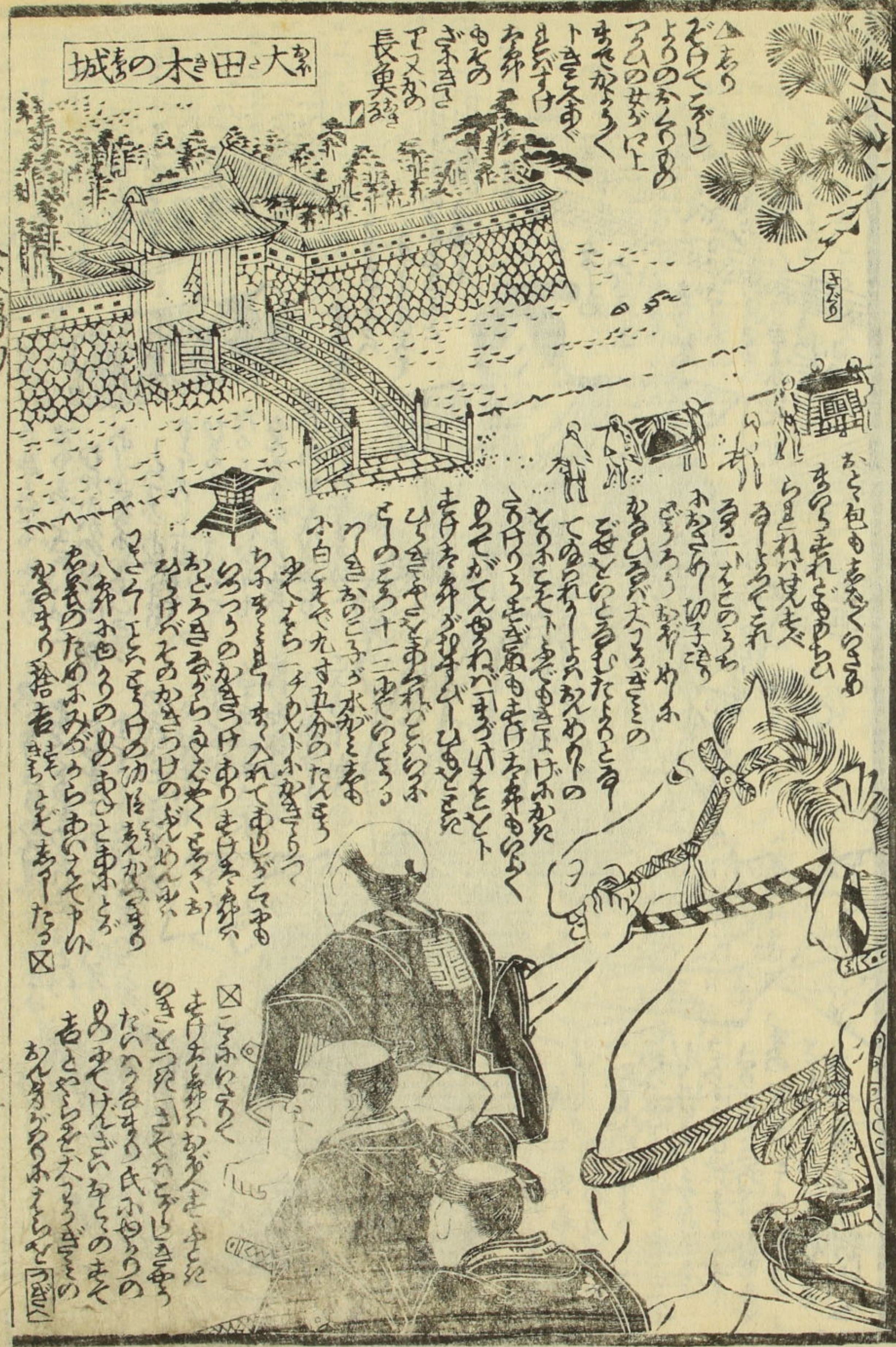
あつたかかれが丸とていふ  
のこるからとてわら  
りる一人衆の女房  
長奥の女房のひとり  
子の佐市のおもひ  
のりてつとせせ  
小大のつとせせ  
うはきぬとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて

あつたかかれが丸とていふ  
のこるからとてわら  
りる一人衆の女房  
長奥の女房のひとり  
子の佐市のおもひ  
のりてつとせせ  
小大のつとせせ  
うはきぬとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて  
まのせとて



△あり  
 ぞりてそし  
 上のののの  
 つひのむか  
 まるかろく  
 トきま  
 ちの  
 ちの  
 さふま  
 長  
 長  
 長

△あり  
 ぞりてそし  
 上のののの  
 つひのむか  
 まるかろく  
 トきま  
 ちの  
 ちの  
 さふま  
 長  
 長  
 長



城の木の田の大

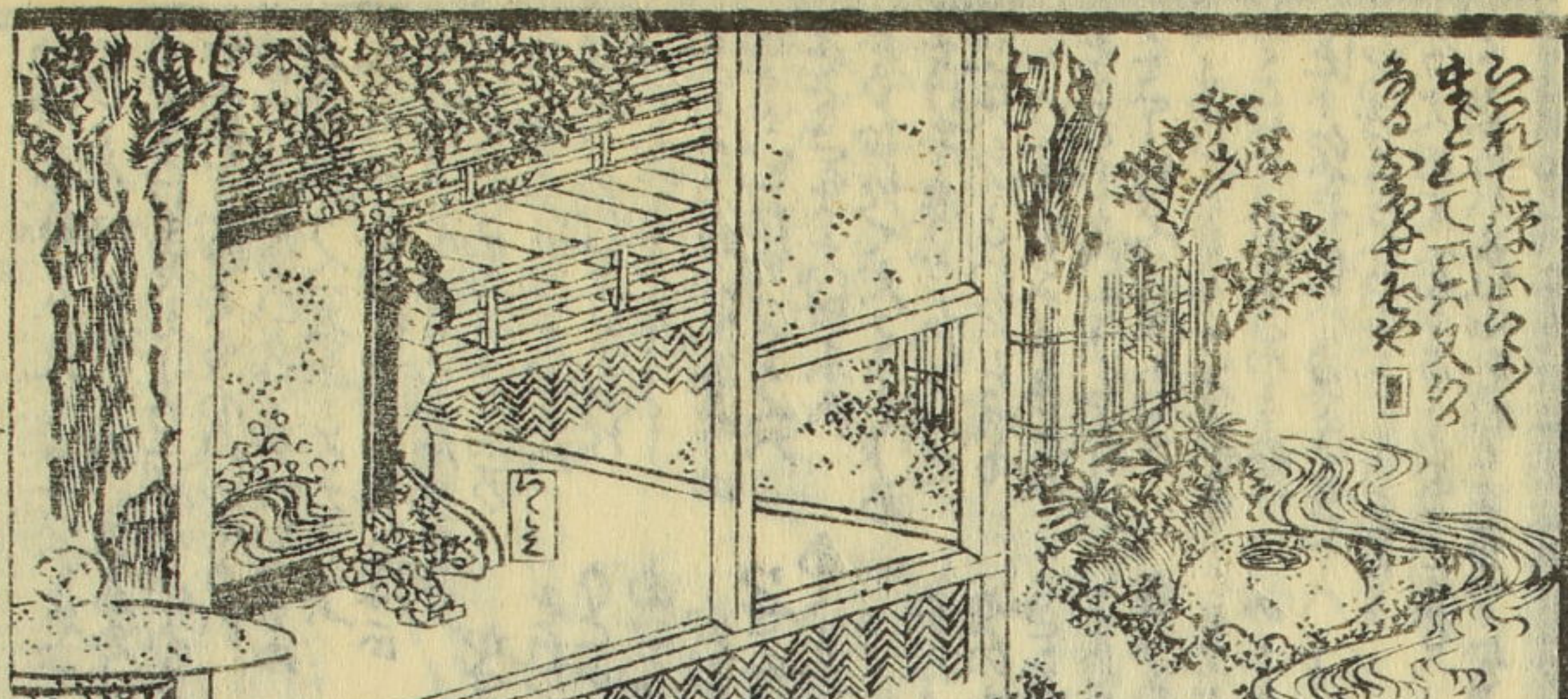
△あり  
 ぞりてそし  
 上のののの  
 つひのむか  
 まるかろく  
 トきま  
 ちの  
 ちの  
 さふま  
 長  
 長  
 長

△あり  
 ぞりてそし  
 上のののの  
 つひのむか  
 まるかろく  
 トきま  
 ちの  
 ちの  
 さふま  
 長  
 長  
 長

△あり  
 ぞりてそし  
 上のののの  
 つひのむか  
 まるかろく  
 トきま  
 ちの  
 ちの  
 さふま  
 長  
 長  
 長

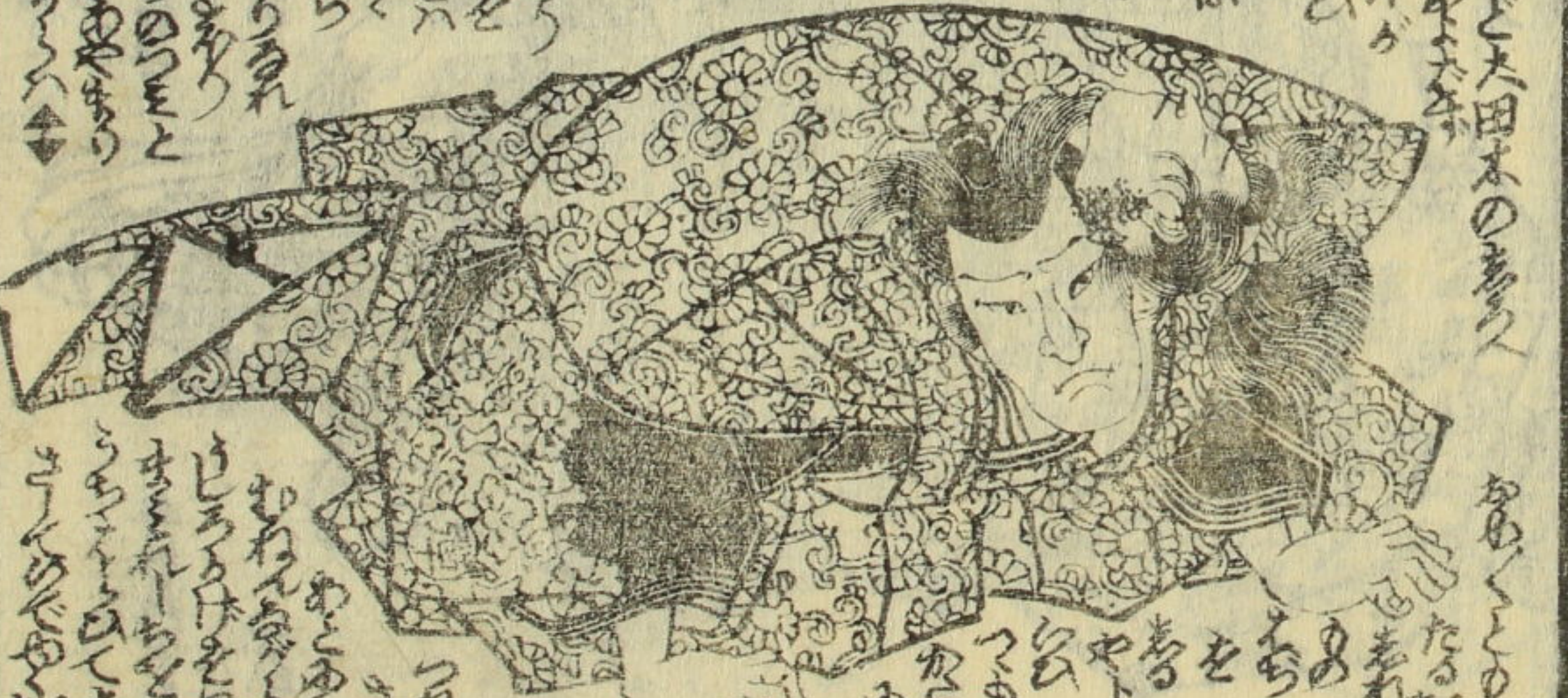






つれて深き川  
まゝにして一日は又  
あるかきせむ

ふたつとけれけしうん今あつた田本のきん  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
ふたつとけれけしうん今あつた田本のきん  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
ふたつとけれけしうん今あつた田本のきん  
あつたてふうろ九のひあふたふた



あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた

大田本

あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた



あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた

あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた  
あつたてふうろ九のひあふたふた









禮



仁

智



義

信

信



孝

忠

悌

